

COLLECTION EXHIBITION

A Collection of Famous Works Chosen by the Public

## 秋の所蔵作品展



栗田五来(作) 1949年

# みんなが選んだ 名品セレクション

2019年9月26日(木)～12月24日(火) 2階展示室

[開館時間] 9:00～17:00 (10月18日までの金曜日は20:00、10月25日以後の金曜日は19:00まで開館) ※入場は開館の30分前まで

[休館日] 9月30日、10月7日、10月21日、10月28日 ※11月11日は、展示替のため所蔵作品量は閉室

[入館料] 一般510(410)円/大学生310(250)円 ※( )内は20名以上の団体

[船景園共通券] 一般610円/大学生350円 ※特別展は別料金

※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。

※高校生以下、障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。



広島県立美術館  
Hiroshima Prefectural Art Museum

<http://www.hpam.jp/>

〒730-0044 広島市南区上野国2-12 tel.082-233-6246 fax.082-233-4444

## 【概要】

### 秋の所蔵作品展

#### みんなが選んだ 名品セレクション

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、昨年は開館50周年の節目を迎えることができました。

開館以来、多くの方々のご協力を得て、コレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

今期の所蔵作品展では、「みんなが選んだ名品セレクション」をお楽しみいただきます。昨年度の秋の所蔵作品展では「開館50周年記念 広島県立美術館名品セレクション」として同年発行のコレクションガイド掲載作品を一堂に展示し、来館者のみなさまから人気投票を募りました。上位を占めた作品を中心として、関連作品をあわせて展示することでさらに魅力を感じていただきます。

来館するごとに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。今年度の所蔵作品展にもご期待ください。

## 【彫刻展示室】日本の彫刻

昨年開催し、来場者のみなさまによる人気投票を行った「広島県立美術館名品セレクション」では、日本の彫刻から4人の作家が選ばれ、1作家1点ずつご紹介しました。今回は、「広島県立美術館名品セレクション」に出品した4作品に加え、同じ作家の作った、素材や技法の異なる作品を合わせて展示します。

作家ごとに複数の作品を展示することで、例えば平櫛田中の《落葉》と《五柳先生》では、木を素材に用いたところや大きさが同じくらいであることなど、類似点に気がきます。しかし、一方は丁寧に衣服を描き込むなど加飾に力を入れているのに、もう一方は無垢のまま、というように異なる表現も目を惹きます。このように、どの作家の作品も、似ているところや似てないところがあって、その違いもさまざまです。しかし、そうした違いこそが、作家たちが思い描いた理想のカチを追求し続けた結果に違いありません。

今回の展示では、さまざまな視点で似たところや違うところがよくわかる作品をご覧ください。どうぞゆっくりとお楽しみください。



総合第4位

平櫛田中《落葉》 1913年 木

## 【第1展示室】西洋美術

この展示室では、絵画と彫刻を含む西洋美術作品のうち、ランキングの上位に選ばれた8点（絵画5点、彫刻3点）と、その関連作品をご覧ください。

西洋美術部門で1位に輝いたのは、ダリの《ヴィーナスの夢》。そして、ダリと同じシュルレアリストの画家、マグリットは3位にランクインしました。これをふまえ、この度の展示では、各作品とシュルレアリスムとの関わりに目を向け、シュルレアリスムの運動を取り巻く影響関係を広く展観します。

シュルレアリスムは20世紀を代表する美術運動であり、その表現手法や様式、思想は、パリを発信地に国内外の様々な作家に影響を与えました。

例えば、対象を多視点で捉えたキュビズムの創始者として知られるピカソは、パリでシュルレアリスト達と過ごし、一時期、様式的にも彼らに接近しました。イギリスで前衛芸術を推進したヘップワースやムーアもシュルレアリスムの影響を受け、バイオモルフィック（生命形態的）な表現を取り入れています。若い頃、パリに滞在したイサム・ノグチの作品にも、同様の傾向が見てとれるでしょう。

皆さまの投票により選ばれた、西洋美術の名品たち。作品同士、作家同士の繋がりにも目を向けることで、新たな魅力を発見していただければ幸いです。



総合第28位

アレクサンダー・カーノルト《静物》  
1925 油彩・カンヴァス

## 【第2展示】日本洋画 「小特集 小林千古」

小林千古という名前をご存じでしょうか。明治3年、現在の廿日市市に生まれた洋画家です。当時は美術を学ぶ人の多くがヨーロッパに留学する中、千古はアメリカで美術を学びました。というのも、アメリカへ渡ったのは美術を学ぶつもりではなく、一旗揚げたかったからだといいますが、ちょっとしたことがきっかけになって美術学校へ通うようになりました。働きながらの勉強だったため時間は掛かったものの、やがて高度な技術を身に着けた千古は一旦帰国し、続けてヨーロッパに向かいます。パリでは、黒田清輝をはじめ多くの画家と交友し、また各地を旅して見分を広めました。帰国後の千古は、宗教などから着想を得た説話的、寓意的な表現の作品も発表するなど、誕生して間もない日本の洋画に大きな役割を果たしました。残念ながら早くに他界し多くの作品は残していませんが、この展示では千古の留学中の素描から構想画の下絵まで幅広くご紹介します。

また、同時に「みんなが選んだ名品セレクション」の一環として、日本の洋画部門で1位から8位までの作品も合わせて展示します。千古が没してから約百年、洋画という表現の多様な変化にもご注目ください。



小林千古《ミルク・メイド》 1897年  
油彩・カンヴァス

## 【第3展示室】日本画

当館では、ご来館いただいた方がいつでも広島ゆかりの主要日本画家の作品が鑑賞できるように、児玉希望・奥田元宋・平山郁夫の作品を常に展示してまいりました。今回、日本画のベスト3に選ばれ、また、全体ランキングでもベスト5に入ったのが、この3作家です。

総合第1位に選ばれたのは、奥田元宋《待月》。「元宋の赤」と言われる鮮烈な色彩で知られる元宋が、赤色を見出す前に描いた作品です。今にも月が昇ろうとする瞬間の景色に自らの思いを託した本作は、元宋にとって心象表現の始まりとなりました。日本画での第2位は、児玉希望《浅春》。冬から春へと移ろいゆく季節の情景が丁寧に描写された、初期の希望を代表する大作です。第3位は、平山郁夫《受胎霊夢》。主題となっているのは、摩耶夫人（釈迦の母）が、胎内に白象が入る夢を見て懐妊したという説話です。生命が宿るその瞬間が、幻想的に表現されています。今回は、この3作家の作品の中でも、特に代表的な作品を併せて展示します。

また、広島で活動した前衛の日本画家・船田玉樹や、尾道を拠点とした森谷南人子、郷里の安芸高田市で農村美の表現を追求した和高節二の作品などが選ばれました。

巨匠から、郷里で愛された作家まで。当館が誇る煌めきの日本画をご堪能ください。



総合第3位 児玉希望《浅春》1930年  
絹本彩色

## 【第4展示室】日本とアジアの工芸

この展示室では、日本とアジアの工芸作品の中から、上位に選ばれた11点とその関連作品をご紹介します。

日本の工芸部門では、桃山時代から江戸時代に作られた輸出用の磁器と漆器が1～3位に選ばれました。ポルトガルがインド航路を開拓し大航海時代が幕を開けた15世紀末以降、東洋の様々な商品がヨーロッパへ運ばれるようになり、なかでも白磁は「白い黄金」と呼ばれるほど絶大な人気を博しました。また、漆の木が生育しないヨーロッパにおいて、漆器はエキゾチックな品物として珍重されました。当時の技術の粋を集めて作られたこれら輸出工芸品は、まさに名品と呼ぶにふさわしいものです。続いて4～6位に選ばれたのは近代の名工による銀器と漆器です。いずれも息を呑むような繊細な表現にご注目ください。

アジアの工芸部門では、インド更紗が1位と5位に選ばれました。更紗は洋の東西に運ばれ、各地の模様染に大きな影響を与えたことが知られていますが、色鮮やかな文様が染められた軽やかな布は今も私たちを魅了します。2～4位には中央アジアのジュエリーと染織品が選ばれました。独特の美意識を反映した華やかなデザインは、当地の女性を美しく引き立てたことでしょう。

長い歴史を経て今に伝わる名品をどうぞお楽しみください。



総合第6位 《伊万里柿右衛門様式色絵馬》  
17世紀後半 色絵磁器

## 【関連イベント】

### ①学芸員によるリレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介する豪華なトークイベントです。

日時: 11月22日(金) 15:00～

場所: 2階 展示室

※申込不要、要入館券。2階会場入り口でお待ちください。

### ②対話型鑑賞

学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。それぞれが発見したこと、感じたことなどを共有しながらみることで、各作品をよりじっくりと楽しんでいただくプログラムです。

(※本プログラムにご参加の方は、なるべく事前に作品解説を読まれないことをおすすめします。既にお読みになった方でも、ご参加は可能です。)

日時: 10月5日(土)・11月16日(土) 各日 15:00～(1時間程度)

場所: 2階 展示室

※ 申込不要、要入館券。2階会場入り口でお待ちください。

### ③友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00～／土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所: 2階 展示室

参加料: 無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる

開館 50 周年記念

広島県立美術館  
Hiroshima Prefectural Art Museum

広島県立美術館 名品セレクション

# 所蔵作品「総選挙」結果発表

順位	ジャンル	作者名	作品名	得票数
1	日本画	奥田 元宋	待月	728
2	西洋絵画	サルバドール・ダリ	ヴィーナスの夢	653
3	日本画	児玉 希望	浅春	431
4	彫刻	平櫛 田中	落葉	412
5	日本画	平山 郁夫	受胎霊夢	395
6	工芸		伊万里柿右衛門様式色絵馬	341
7	日本洋画	入野 忠芳	裂罅(れっか)75—6	304
8	彫刻	圓鍔 勝三	月夜の僧	246
9	日本画	船田 玉樹	日輪	238
10	日本画	森谷 南人子	初春閑村	213

投票総数：8648

「開館 50 周年記念 広島県立美術館名品セレクション」の会期中に行いました当館作品の総選挙では、多くの方にご投票いただき、感謝申し上げます。

2019年9月26日(木)から開催の「秋の所蔵作品展 みんなが選んだ名品セレクション」では、人気投票に選ばれた作品をじっくりお楽しみいただけますので、どうぞご期待ください。